

炭鉱を、このまちの歴史を知る



(上) かつての石炭採掘の様子が再現されたダイナミックトンネル

(右) 「明治日本の産業革命遺産」のガイダンス施設でもある

日本の近代化と大牟田の発展を支えてきた三池炭鉱の歴史と技術や、石炭産業に関する知識を深めることができるほか、「明治日本の産業革命遺産」の紹介も。イチオシは、地下400mの坑内世界を体験できる「ダイナミックトンネル」。三池炭鉱で行われていた石炭採掘の様子を、実際の機械を見ながらエキサイティングに感じることができます。このほか、三池炭鉱に関わった人々の証言をテーマ別に視聴できるデジタルアーカイブや、様々なエネルギーを使って遊ぶ仕掛けを集めたエネルギー体験コーナーもあります。



大牟田市石炭産業科学館

- 所** 大牟田市岬町6-23
- 料** 大人420円 小人210円
- 時** 9:30~17:00
- 休** 月曜(祝日の場合は翌平日)、12/29~1/3
- 問** 0944-53-2377
- 交** (西鉄バス)「イオンモール大牟田」下車 徒歩8分

大牟田市石炭産業科学館
ホームページ



世界遺産に沈む夕日「光の航路」



(上) 航路先端からまっすぐに光が伸びる「光の航路」。

(右) 上空から見ると、ハチドリのような形から「ハミングバード」とも呼ばれる。

明治41(1908)年竣工。遠浅で干満の差が大きい有明海において、石炭積み出し用の大型船の入港・停泊を可能にするために築港されました。干潮時の渠内(ドック)の水位を保つために閘門(水門)が設けられ、築港当時のまま、今も現役で稼働しています。年に2回、日没の方位が247度となる、1月と11月の中・下旬頃には、夕日が航路先端から閘門を通り、まっすぐに伸びる「光の航路」を見ることができ、撮影スポットとして人気になっています。また、周辺には工場群もあり、工場夜景撮影もおすすめのエリアです。



世界遺産 三池港 「光の航路」

- 時** 1月中・下旬/11月中・下旬
※開催日・時間の詳細は年により異なる
- 所** 三池港1番岸壁付近(大牟田市新港町)
- 問** 0944-41-2750
- 交** (西鉄バス)「三川町一丁目」下車 徒歩5分

大牟田の近代化産業遺産
ホームページ

